



ありし日のポール・C・ブルーム氏 (1898-1981)

開港のひろば

NEWS YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

- 編集・発行／横浜市総務局横浜開港資料館
横浜市中区日本大通3丁目231
電話 045(201)2100 企画室内
- 発行日／昭和57年3月31日
- 印刷／神奈川新聞社

横浜の歴史を知ることなしには日本の開国と近代化の歴史を語ることできません。日本と歐米諸国との外交関係も、貿易も、ここを経由しておこなわれたし、歐米の近代文化も、ここを窓口として入り、全国にひろがりました。開港資料館では、そうした横浜の国際的性格から、海外の資料を多くあつめているのが特色です。

たとえば、江戸時代から明治時代にかけて欧米人が書いた横浜および日本についての書物、外交・貿易関係では、イギリスやアメリカの政府文書をはじめ宣教師や商社の資料、また公文書の不足を補う居留地で発行された外字新聞などです。このたび、その目録ともいえる「ブルーム・コレクション」には、ブルーム氏が離日後、米国内で収集した資料二百十八点が寄贈され、新たに横浜市が購入した「ドン・ブラウン・コレクション」なども加わり、資料館の海外資料の内容はさらに充実しました。

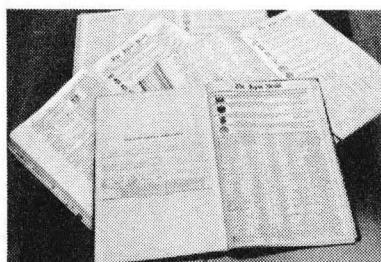
「ブルーム・コレクション」

横浜に生まれ、有数の親日家であつたアメリカ人、ポール・C・ブルーム氏は、海外で出版された日本関係の書籍・雑誌類のほか横浜等の収集家として有名でした。が、昨年八月十六日、ニューヨーク市内の病院で、狭心症のため八

横浜に生まれ、有数の親日家であつたアメリカ人、ポール・C・ブルーム氏は、海外で出版された日本関係の書籍・雑誌類のほか横浜等の収集家として有名でした。が、昨年八月十六日、ニューヨーク市内の病院で、狭心症のため八

十三歳で死去されました。ブルーム氏は、開港資料館設立の趣旨に賛同され、三年前に日本を去る時に愛蔵のコレクション約六千点を進んで横浜市に提供するなど、開館にあたって多大な協力を惜しまれなかつた人です。今回寄贈された資料は、ブルーム氏が横浜にプレゼントするつもりで、帰国後も米国内の古書店を丹念に回って、資料館にふさわしい資料をあつめたもの。寄贈者は、メイのグレシンさんで「四ヶ月前に亡くなつた故人の遺言でした」のメッセージ付き。小包みには、「ブルーム・コレクション」に「ドン・ブラウン・コレクション」と並んで「四ヶ月前に亡くなつた故人の遺言でした」のメッセージ付けてあります。

開港資料館では、ブルーム氏の横浜居留地発行「ジャパン、ヘラルド」(「ドン・ブラウン・コレクション」から)が納められていました。



横浜居留地発行「ジャパン、ヘラルド」(「ドン・ブラウン・コレクション」から)

内容ぐんと充実

日本関係資料
海外資料

好意に感謝し、同氏の遺志に応えられたため、コレクションの整理を急ぎ、多くの人が利用しやすいよう横浜居留地で発行された英字新聞や風刺雑誌、リスト教の定期刊行物と日本関係洋書類など約一万点。「ブルーム・コレクション」にあわせて、一日も早く公開できるよう、目録づくりと整理を急いでいます。

「ドン・ブラウン・コレクション」

開港資料館に、また新たな魅力が加わりました。それは、生前ブルーム氏とも友人であったアメリカ人、故ドナルド・B・ブラウン氏のコレクションで、海外に流出する話を横浜市が食い止め、一括購入したものです。その内容は、横浜居留地で発行された英字新聞や風刺雑誌、リスト教の定期刊行物と日本関係洋書類など約一万点。「ブルーム・コレクション」にあわせて、一日も早く公開できるよう、目録づくりと整理を急いでいます。

横浜開港資料館

こんな利用を

展示が語るもの

横浜開港資料館の仕事の第一
は、三室ある展示です。第一室は
開港とそれをめぐる内外の動きを
あつかい、第二室は開港当時の横
浜の街の様子を示し、ともに常設
です。第三室は、横浜に関係ある
特定の人物やテーマをとりあげ、
2か月ないし3か月ごとに展示替
えをしています。

この資料館は、開港から大正一

二(一九一三)年の関東大震災ま
での資料を集めています。明治の
はじめの開港期・文明開化期だけ
ではなく、その後の時期の多方面
の問題についても展示したいと計
画しています。たとえば大都市に
発展するにともなっておこる都市
問題、市民生活の変貌なども考え
られるでしょう。

もとより展示で歴史の流れが充
分わかるというわけにはいきませ
ん。スペースもせまいし、物によ
りきつかけを提供するという点
にあります。展示を見て、わから
ない点、もっと知りたい点があれ
ます。この集めた資料を専門家だけ



遠山茂樹 館長

ば、遠慮なく地階の閲覧室にいる
レフアレンス担当の館員におたず
ねください。

資料集めと閲覧

この資料館の仕事の第二は、横
浜の歴史の資料を集め、整理し、
市民の方に公開することです。横
浜の歴史資料は、関東大震災と空
襲によって、大部分が失われて
しまいました。それだけに資料を
集め保存することが大切です。市
内でもまだ未公開の資料を探
しだすことはできますし、全国各
地にも残っています。外国にもた
くさんあるというのが横浜の特色
です。今努力して集めておかなければ
は、今後は一層むずかしくなる
と思われます。

資料は、文書・記録・新聞・雑
誌・絵画・写真・地図など多様で
あります。この集めた資料を専門家だけ

でなく、一般市民の方々にも利用
していただきたいと願っています。
他の図書や資料も、情報ファイ
ルや一部の図書を自由に手に取
っていました。他の図書や資料も、御申出くださ
れば安く閲覧できます。

市民が住んでいる、あるいは
職場のある地域の歴史を自分の手
で調べようという動きは、全国的
に高まっています。五〇年前、百
年前の歴史も、今日のみなさんの
生活と、ふかいかかわりをもって
います。過去を知り考えることは、
現在を知り考えることにつながる
でしょう。

みなさん地域が都市化される
以前は、どんな状態であったか、
都市化がすすむにしたがって、小
学校教育や家庭にどんな変化がお
こったのか。小学校三年の社会科
教科書には「市のうつりかわりを
しらべる」単元がありますし、四
年生の教科書には「きょうどうを開
いた人々」という単元があります。
教育のうえで、過去を見る眼が、
現代を考える眼となるとされて
いるからです。横浜についての報
道の多い二種類の新聞の複製本が
開架の棚に並んでいます。よそで
見るところがあります。しかし、
近代国家も近代都市も、その成
立と成長・発展の要として、物
心両面にわたる核が必要なこと
は、否定できません。そういう

横浜史の拠点として

歴史は、時と所とを舞台にし
て、人間が生のまま演じるリアル
ティでありましょう。しかも、
歴史は同時代を刻みながらも、
過ぎ去った悠久の流れを思い出
させますから、歴史の記録・思
い出(資料)はロマンをも奏で
ります。

横浜開港資料館は、横浜、い
や近代日本の歴史を考え、懐し
む市民にとって、
恰好の「歴史の館
(やかた)」である
と思います。

歴史の構成要件
としての時代と地
域と人間とを緊縛
して、開港資料館ほど、それに
適うものがない、というのが私
たちの確信です。

市民と館の触れ合い
歴史は、時と所とを舞台にし
て、人間が生のまま演じるリアル
ティでありましょう。しかも、
歴史は同時代を刻みながらも、
過ぎ去った悠久の流れを思い出
させますから、歴史の記録・思
い出(資料)はロマンをも奏で
ります。

当館は、市民に開かれた文化
・情報・学習施設です。たくさ
んの入館者(利用者市民)があ
るにこしたことはありません。
ところが、残念ながら、入館者
は、当初の入館見
込み人員(一日平
均三四四人)を割
つてしまふ結果が
でした。私たち
のPR不足もあり
ますが、やはりこ
とが、十分、市民に理解されて
いないところにあるようです。

幸い、「開港の広場」もできま
す。ここを出発点として、公文
書館や昭和資料館建設の芽も出
ています。夢を広げたい。その
基礎を固めたい、そう意願して
やみません。



横浜の象徴になるために

象徴(シンボル)は、時には
危険であり、あやふやだったり
することがあります。しかし、
書館や昭和資料館建設の芽も出
ています。夢を広げたい。その
基礎を固めたい、そう意願して
やみません。

幸い、「開港の広場」もできま
す。ここを出発点として、公文
書館や昭和資料館建設の芽も出
ています。夢を広げたい。その
基礎を固めたい、そう意願して
やみません。

協会常任理事 花井清二良

そうした意欲をかきたててくれるでしょう。

講演会・勉強会のもよおし

歴史を知るために、専門家の書いた歴史書を読み、話を聞くことと、歴史の史料を読み調べることで、両方が必要です。この館は各種の講演会、講座、勉強会を開いています。特別展示のテーマについての講演会、横浜市の歴史を系統的にとりあげる講座、古文書や外国の史料を読む勉強会です。



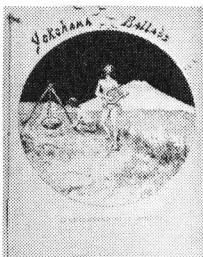
歴史とは、こまかい事実がわかればわかるほど、興味がまし、理解が容易になるという性質をもって

います。展示を見、閲覧室に入ります。歴史に関心をもたれた方は、ぜひこちらのもよおしに参加してください。どれも初心者を対象としています。くすし字で書かれた古文書を読むことができるのか、何のおもしろさがあるのか、どう考えられるかもしません。しかし「一、二、三回も教われは読む力は眼にみえてついてきます。そして読むことで、歴史の世界はぐっと近くなり、これまで見えなかつたものが見えてくる、おもしろさを味わうことができるでしょう。

横浜市の横浜開港資料館は、何よりも市民のための、市民に利用

刺画だけではなく、ビゴーは見えてきました。日本の人々を、暖かな目と確かな筆先で描いた作品も数多く残しています。諷刺画の裏にあつたこれらはほとんど知られずじまいでした。最近、フランスで新資料も発見されました。今回の

来日百年記念（4/28～7/29）



「横浜バラード」表紙
(1897, ビゴー)



3月13日「横浜の近代建築」講演会でのスナップ (開港資料館講堂)

される施設であることをめざしています。(館長 遠山 茂樹)

今年は明治の諷刺画家、ビゴーが来日してちょうど百年めにあたります。ビゴーが暮らした時期の日本は近代化の最中にありました。ビゴーのさめた目はこども、極東の小国が欧米諸国への仲間入りを果たすためにはずいぶんと、無理を重ねなければなりませんでした。ビゴーのさめた目はこの矛盾を鋭くとらえ、「漁夫の利」や「猿まね」といった傑作を次々と生み出しています。しかし諷

刺画だけではなく、ビゴーは見えてきました。日本の人々を、暖かな目と確かな筆先で描いた作品も数多く残しています。諷刺画の裏にあつたこれらはほとんど知られずじまいでした。最近、フランスで新資料も発見されました。今回の

来日百年記念（4/28～7/29）

「ジヨルジユ・ビゴー」展

展示では、これらの資料をもとに、ビゴーがその作品を通して言いたかったことは何であったのかを考えもらえたと思います。

この展示でもう一つ見てほしいことがあります。それはビゴーの日本での最後の作品となつた「ヨコハマ・バラード」のことです。

今年は明治の諷刺画家、ビゴーが来日してちょうど百年めにあたります。ビゴーが暮らした時期の日本は近代化の最中にありました。ビゴーの住まいは横浜ではなく東京でした。また、しばしば日本各地に旅行もしています。しかし帰国に際して残していった作品は、ヨコハマでした。当時の国際都市・横浜はビゴーのなかでどのように響きをもっていたのか、この問いは謎。今、フランスから子孫を招く計画も進めていますが、日本人の血を引く彼の「横浜」はたしてどんなものでしょうか。

この展示でもう一つ見てほしいことがあります。それはビゴーの日本での最後の作品となつた「ヨ

二 情報

開館二年目を迎えた資料館の五

十七年度業務の計画とその概要についてお知らせします。展示・閲覧をはじめ講座や講演会、研究会へのご参加をお待ちしています。

▽展示の開催 常設展示のほか年4回にわたり企画展示を計画しております。その概要は、仮称ですが、(1)『ジヨルジユ・ビゴー』展(四月～七月)、(2)『ブルーム・コレクション』展(八月～十月)、(3)『タウゼント・ハリス』展(十一月～五十八年一月)、(4)『蚕種貿易と上州島村の人びと』展(同二月～四月)。(1)

(3)はおもに海外資料の展示ですが、(1)は来日百年記念、(2)は故ブルーム氏の一周忌、(3)は昨年度のペリー展の開国に対応するハリスの開港といった観点を主眼とした「ヨコハマ」でした。当時の国際都市・横浜はビゴーのなかでどのような響きをもっていたのか、この問い合わせは謎。今、フランスから子孫を招く計画も進めていますが、

今年がその初年度業務。内容としては(1)横浜開港史の調査研究では、ハリス文書・居留地形成・内外貿易史・居留地文化の諸側面を研究、(2)土木・産業施設の遺構等ハ

- ▽講座の開催 昨年度好評だった(1)古文書を読む会 (2)原書に親しむ会、(3)市史講座を今年度にも予定しています。(1)は内田四方蔵氏(郷土史家)、(2)は石井孝氏(津田塾大学教授)をそれぞれ講師に予定。このほか夏休みには、小・中学生を対象に「こども歴史講座」を開催します。ふるってご参加ください。
- ▽調査・研究 資料館の重要な仕事である調査・研究の計画は大きくて二つにわかれます。開国・開港期から明治期に至る横浜の歴史を、ソフト面とハード面から総合的に研究する三ヵ年計画のうち、今年がその初年度業務。内容としては(1)横浜開港史の調査研究では、ハリス文書・居留地形成・内外貿易史・居留地文化の諸側面を研究、(2)土木・産業施設の遺構等ハ

ード面の調査研究では、臨海地区・市内土木遺構・プラント&バー

マー関係資料の予備調査です。

開港のひろば



を振り返ってみたいと思います。

おもな行事△展示・講座△

【展示】最初の『ペリー提督』

展(6/2~8/30)は、ペリーによる開国の歴史的な意義を考える開館特別記念展。次の『下岡蓮杖と横浜写真』展(9/3~10/30)では、文明開化の一コマを代表する写真の元祖下岡蓮杖をとりあげ、当時の様子を展示で再現し

ようとしたもの。自由民権期の横浜展(11/3~1/31)は、自由民権運動百年を記念し、横浜での動きを伝えようとした展示。現代建築のパイオニア遠藤於菟と横浜の近代建築展(2/2~4/25)では、日本の近代都市形成史上欠かすことのできない建築家遠藤於菟の活躍をとりあげた展示。

なお、開館時には記念講演会が

昨年六月、五ヵ国の大連を迎えて開館した資料館の利用者は、今年の三月で約三万一千人に達しています。このほか講座・講演会等の利用を含めるとその数はもっと多くなり、あらためて資料館のもう一つ役割を考えさせられています。

江戸から明治になったばかりの港・横浜——そこは、文明開化のまちであり、新しい文化の発祥地

でありました。日米修好通商条約にもとづき、安政六(一八五九年)六月一日に開港された横浜では、同年十月、貿易とともにう商取引のため、日本の官庁と売込・取引商たちが、外国人の休日にならつて「日曜日」を休みとすることに決めました。横浜での「ものの初め」の最初の重要な出来事です。それまで、休みなく働いてい

五雲亭貞秀の「横浜鉄塔(どんたく)之図」には国旗を掲げ、ラッパを吹き、太鼓をたたいて行進する人々がみられ、「五箇国人物行歩図」(同上)や「外国人どう

た日本人にとって、休日に遊び果てる外国人の姿は、とても奇妙にみえたようだ。開港期の横浜絵には、それらを画題とするものが何点か残されています。たとえば、

第一回横浜どんたく開催

資料館周辺

た日本へと、山室家、緑区の吉浜家文書を収集。これらの資料は漸次整理に着手。一部はマイクロ化・複製本化して閲覧室にて広く利用をはからっております。

(昭和五十七年度のおもな行事や業務については、三ページの「ミニ情報」をごらんください。)

おもな業務△資料収集・整理△

資料館の重要な業務である資料の収集及び整理が、閲覧に向けてかっぱつに行なわれました。

まず、トン・ブラウン氏の資料

を収集。その後市内の郷土資料では神奈川区の山室家、緑区の吉浜家文書を収集。これらの資料は漸次整理に着手。一部はマイクロ化・複製本化して閲覧室にて広く利用をはからっております。

催され、知日家ドナルド・キーン氏と遠山茂樹館長が講演しました。

【講座】内田四方藏氏(郷土史家)を講師に招き、受講者43名で「古文書を読む会」(10/3~3/20)を開催。また、石井孝氏(津田塾大学教授)を講師に招き受講者41名で「原書に親しむ会」(10/24~3/27)を開催。毎月第四土曜日ごとに開催しました。

Q&A

横浜開港資料館には、展示室のほかに閲覧室があると聞いておりますが、その内容、利用方法などを教えて下さい。(港区・加山雄子)

当館閲覧室では、日本の開国

・横浜の開港をめぐる内外歴史

示室のほかに閲覧室があると聞いております。また、横浜毎日新聞、横浜貿易新報などの複製的資料を必要とする方には別

に特別閲覧室もあります。利用時間が午前九時三〇分から午後七時三〇分。なお、土・日・祝日は午後四時三〇分までです。



そうした横浜の歴史への認識を深め、ハマの誕生を祝い、横浜の新しい文化をつくる市民参加の祭り「どんたく」を、と横浜青年会議所が中心になって、六月実施を目標に計画を進めています。開催日は五日の土曜日を前夜祭とし、横浜港の大橋橋か山下公園近くで洋上コンサートを実施。六日のメーン行事には開港当時の服装をした仮装行列を考えています。名称は「'82国際デー・第一回横浜どんたく」、新しい祭りの出発です。

このたび、こうした館の活動をちついたふん興味で資料をご利用いただけよう。それはかりを念じて仕事に励んでまいりました。

このたび、こうした館の活動をみなさまにお知らせし、また逆に資料館に対するみなさまからのご意見、ご注文等をいただきたいことによって、相互の交流をはかり、今後とも親しみやすく、開かれた資料館とするみなさまからのご意見、ご注文等をいただきました。今回は、そのことになりました。今回も、その呼び水ともいえるもの。ご意見等

を企画室までお寄せください。